

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：教育分科会

開催日時：平成21年8月7日（金）16時10分～19時

開催場所：松戸市役所議会棟3階 特別委員会室

出席委員：海老名みさ子、鎌形武久、神山真理、小林恵美、三枝雅信、
竹島さゑ、難波幸男、橋本恵子、山口和子、関聡、山口昌郎（敬称略）

事務局：久富博之（政策調整課）

会議内容

1. 分科会長、副会長の互選

簡単な自己紹介の後、最初に分科会の会長と副会長を以下の通り決定した。

分科会長：三枝雅信	委員
副会長：小林恵美	委員

2. 今後のスケジュール

続いて、今後分科会を行う日程について以下のように調整した。

第2回：平成21年8月29日（土）13時～16時
第3回：平成21年9月30日（水）13時～16時
第4回：平成21年10月15日（木）13時～16時

3. 各委員の課題意識

さらに、この分科会に参加するにあたって課題意識として持っているものを、各委員が付箋に記入する形で出し、発表した。詳細は下記のとおり。

- ・学校図書館の有効利用を考えたい。図書館に司書がないため、設備を有効利用できていない。
- ・新しい市民図書館として、50万都市にふさわしい図書館が必要。文化の向上や市民の学習に貢献すると思う。
- ・生涯学習スポーツ施設の充実を望む。高齢者の増加や健康志向の高まりでニーズが増えているわりに、施設が不足している。
- ・文化レベルの向上を図りたい。具体的に、周囲より貧弱な図書館の充実、学校図書館司書の常駐、博物館の充実（自然科学系）を挙げる。
- ・子どもに日本の伝統文化を学ぶ機会を与えたい。

- ・戸定館は現在使えなくなっているが、保存と使用の共存ができないか。使えないものは残っていかないと思う。
- ・松戸で伝統文化を体現している人の活用を考えたい。
- ・スポーツ施設、スポーツを通じて世代を超えた運動のできる、昔の子供たちと同じような環境を作りたい。
- ・個の学力に応じて学習できる環境を整える。
- ・学校が本来の教育活動に集中できる環境をつくりたい。いろいろな要望はあるが、すべて実行できるわけではないので、ポジティブリストからの脱却を図っていく。
- ・財政的に厳しい中で、子どもたちが集まったりする様々な場をどう工夫して作るか、考えてみたい。
- ・様々な歴史的遺産を、保存ではなく公園化して身近なものにする。
- ・現在少子化しているが、外国にルーツを持つ子どもの数は増えている。国籍は日本でも親は外国人という子どもに、日本語だけ日本の教員が教えるというあり方はいいのかどうか。日本語だけ教えても授業についていけない子はかなりいるし、千葉県は全国で 8 番目くらいにそういう子が多いので、ぜひ考えてみたい。
- ・多世代交流を通じ、生きる力を育てたい。
- ・体験学習を多く取り入れて、授業を楽しくしたい。
- ・健康維持のため、1人1種目スポーツや文化的な趣味など、楽しめるものをもてるようにしたい。
- ・ものづくりに関心を持ってほしい。
- ・コミュニケーション力を育てたい。携帯電話の普及で、単語で言葉のやり取りをする、話ができない子どもが多い。
- ・学校教育に地域のおじさん、おばさんの力を活かしていきたい。
- ・学校、教育委員会、地域の3者のつながりのうち、地域と教育委員化のつながりが弱いので、そこを強くする方法を考えたい。
- ・小さい時から個性をいかせる学習、教育、地域づくり。子どもには多くの体験をさせ、高齢者や学生にも趣味やクラブなどで楽しみを持ってほしい。
- ・海外に日本人が出て、日本の文化について聞かれて答えられないという状態を何とかしたい。外国文化、日本文化双方をきちんと理解できるようになってほしい。
- ・異文化を理解できる体制が必要。
- ・地域のコミュニケーション力を復活させる。具体的には、コミュニティスクール（地域住民が学校教育に参画）の導入などを考えたい。
- ・松戸の子どもを世界トップレベルに育てるため、優れた教師を採用してほ

しい。

- ・フィンランドには図書館が日本の6倍あるということを知った。図書館を作るのは予算が関係してくるが、図書館を充実してほしい。また予算制限の中でも、施設の有効利用という観点からは、学校司書増員の問題を考えてみたい。
- ・子ども時代から読書の習慣をつけるようにしたい。また、お話をきく習慣によって想像力を育てる。
- ・元気なお年寄りには一人一つのボランティア参加をしてもらおう。

4. 課題意識の発表

以上の対話を踏まえて、各分科会による全体発表が行われ、小林委員が代表して発表を行った。主旨は以下のとおり。

本分科会は、ほとんどの委員が教育・文化に携わっていて、担当する政策番号は07、08、09の三つ。それぞれについて、多く出た意見を集約すると下のとおり。

政策07「子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする」に関しては、小さいうちからクラブや課外活動などで多くのことを身につけ、地域の人と交流することが必要。

政策08「生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする」については、市民が昔のように年代を越えて、スポーツや文化活動で交流できるようにすることが必要。

政策09「松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする」については、日本の文化をよく知らない人が多いので、きちんと理解して海外で活躍できる人を増やすことが必要。

5. 感想

最後に、分科会内での対話や他の分科会の発表などを通しての感想を、各委員が出した。詳細は以下の通り。

- ・他の方のいい意見を聞いて参考になった。
- ・未来フォーラムの班とはまた違う人々と、コミュニケーションがとれてよかった。
- ・今後の分科会が楽しみになる、期待できるような内容。予定ではすべて出られないのが残念。
- ・地域の方の協力をあおぎながら、学校教育を充実していきたい。
- ・改めて、自分の責任を強く感じた。
- ・できることとできないことがある中で、前向きにいろんなことを考えたい。

- 様々な多くの課題があつて、どうやってまとめていくのが少し心配。
- いろいろな意見があつても、皆さん松戸をよくしようという思いは共通するのがよくわかつた。今後が楽しみ。
- もらったデータ等を基にきちんと考えていきたい。
- いろいろな立場の意見を聞けてよかつた。
- メンバーの根底に松戸をよくしたい思いがあるのはよくわかつた。今度ともよろしく願いしたい。
- これを機会に市に協力できることは協力したい、という気持ちができる。

以上